

会議議事摘録

会議名	平成 28 年度第 3 回学校関係者評価委員会
開催日時	平成 29 年 3 月 18 日 (土曜日) 14 : 00 ~ 16 : 30 (2.5h)
場所	本校 7 階研修室
出席者 (敬称略)	<p>①委員：岩間みどり(保護者)、佐藤文雄(高等学校関係者)、野間 弘(卒業生)、藤井昌弘(医療事務関連業界関係者)、保坂正春(記録事業業界関係者) (計 5 名)</p> <p>②学校：橋本正樹 (校長)、藤野 裕 (参与)、宮下明久 (事務局長)、小田真理子 (速記コンピュータ科学科長)、石川幹夫 (医療秘書科学科長)、村山由美 (医療秘書科副学科長)、黒田 潔 (医療マネジメント科学科長)、岩上由紀子 (介護福祉科学科長)、宮嶋貴与 (鍼灸医療科学科長)、三宅かおり (教務委員長) (計 11 名)</p> <p>③事務局：手塚理恵子、高橋 稔 (計 2 名) (参加者合計 18 名)</p>
欠席者	宮武正秀(福祉関連業界関係者)
配付資料	<p>①事前送付： □資料 1：平成 28 年度第 2 回学校関係者評価委員会議事録、□資料 2：平成 28 年度学校関係者評価報告書、□資料 3：平成 27 年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取組み・改善の進め方 年度末点検報告、□資料 4：平成 28 年度の重点目標と達成するための計画・方法 年度末点検報告</p> <p>②本日配付： □資料 5：平成 28 年度第 2 回委員会以降の主な経過報告 (別添 A：平成 28 年度後期授業アンケート集計結果、別添 B：平成 28 年度学校生活に関する調査・挨拶に関するアンケート集計結果、別添 C：2 月 28 日官報号外第 39 号文部科学省告示第 22 号 (抜粋)、別添 D：平成 28 年度教員研修計画・実績、別添 E：平成 28 年度授業公開実施報告、別添 F：医師事務技術専攻科募集要項・カリキュラム)、□資料 6：平成 28 年度卒業式資料、□資料 7：教育研究 2016 第 34 号 (委員に配付)</p>
議題等	<p>1. 校長挨拶</p> <p>橋本校長より、3 月 15 日 (水曜日) に卒業式を挙行し、7 学科 1 専攻科、366 名の卒業生を送り出した。2 月末に本校の介護福祉科が平成 28 年度の職業実践専門課程に認定された。全国では学校数で 3 割、学科数で 4 割ぐらいが職業実践専門課程に認定されている。介護分野はどこも厳しい状況だが、昨年、外国人の在留資格の法改正があり、介護福祉士の資格を持つ外国人は、日本で仕事ができるようになったことから、以前より交流のある日本語学校等と連携して、信頼できる留学生受け入れルートを考えているところである。</p> <p>来年度は看護科が完成年度を迎える。看護学校の数が増え、学費の安いところや都立に流れる傾向の中で、本校看護科のアドミッション・ポリシーを明確にし、河北医療財団との連携による就職への魅力づけについても訴えていきたい。ほかの学科についても、昨年確認したアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに基づき 4 月から体制を立て直し、学校運営を進めていきたい。委員の皆様には本</p>

日も引き続き本校のサポーターとしての貴重なご意見を賜りたいとの挨拶が行われた。

2. 前回委員会議事録の確認（説明者：事務局高橋）

事務局より本委員会の議事録の作成方法について説明が行われた後、保坂委員長より、前回議事録（資料1）について訂正等がなければ確認し、公開等の準備を進めたい旨の発言があり、特に異議なく、確認、了承された。

3. 平成28年度学校関係者評価報告書について（説明者：保坂委員長、事務局高橋）

保坂委員長より、前回委員会においてまとめた平成28年度学校関係者評価報告書（資料2）の確認経過、及び平成28年12月25日付で校長に提出したことについて報告があり、確認、了承された。

また、事務局より、報告書は1月5日以降学内ネットに掲載して公表していること、本日の確認後は5月連休明けに本校ホームページに掲載して学外公開予定であることについて報告があり、確認、了承された。

4. 経過報告（説明者：宮下事務局長、三宅教務委員長、菊池学科長、事務局高橋）

平成28年度第2回委員会以降の主な経過について、各担当より資料5及び資料6に基づき報告が行われ、確認、了承された。

なお、委員より就職内定の状況と教員研修について質問と意見があり、担当より説明が行われた。詳細は別紙のとおり。

5. 平成27年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取組みの年度末点検報告について（説明者：事務局高橋）

事務局より資料3の構成及び表中の「※4年度末点検の記述経過について説明が行われた後、項目順に質疑応答が行われ、確認、了承された。

なお、委員より以下について質問と意見があり、担当よりそれぞれ説明が行われた。詳細は別紙のとおり。

- ・重点目標（TPC育成、退学防止、教員研修）
- ・項目1：教育理念・目的、育成人材像
- ・項目2：学校運営
- ・項目3：教育活動
- ・項目4：学修成果
- ・項目6：教育環境
- ・項目7：学生募集と受け入れ

6. 平成28年度重点目標の年度末点検報告について（説明者：橋本校長）

橋本校長より、資料4に基づき今年度の3つの重点目標（①TPCの育成と強化、②退学防止、③教員研修）年度末点検結果について報告が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

7. 平成 29 年度の委員委嘱について

事務局より、就任期が異なる宮武委員以外は平成 29 年 3 月 31 日で今期の任期が終了となり、引き続き就任のお願いをしているが、お子様の卒業により交代となる保護者委員（岩間委員）は退任となる旨が報告され、委員長、校長より委員会へのご協力に対する謝辞が述べられた。

岩間委員より「委員会に出席させていただいているだけという感じで、お役に立てなくて申し訳なかったと思うが、本当に貴重な体験をさせていただきました。2 年間ありがとうございました。」とのご挨拶があった。

8. 次回日程、その他

事務局より、次回は 6 月下旬の開催を予定しており、4 月に日程調整を行うこと、テーマは以下の通りとの事務連絡が行われた。

- ①平成 28 年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取組の進め方の説明
- ②平成 28 年度活動の自己点検・自己評価結果（点検大項目）の報告
- ③平成 29 年度の重点目標の説明

最後に、保坂委員長より、教育の質保証はシステマチックに対応する部分もあるが、個々の教員の意識やスキルの向上が重要になってくると思うので、教務委員会はますます頑張ってください。また、仕事でさまざまな会議の記録をつくっているが、最近では大学病院でもサービス向上に力を入れている。その点も大事になってくると思うので、あわせてよろしくお願ひしたいとのまとめの後、次年度への協力依頼が行われ、閉会した。

以上

平成 28 年度第 3 回学校関係者評価委員会の主な討議内容

4. 経過報告

○平成 28 年度第 2 回委員会以降の経過について宮下事務局長、三宅教務委員長、菊池学科長、事務局高橋より資料 5 及び資料 6（別添 A～F）に基づき、以下の報告が行われた。

1. 学生の状況関連

(1) 退学の状況

- ・平成 28 年度の重点目標として年間の退学率 3.5%以下を設定して退学防止に取り組んだ。

(2) 就職内定の状況

- ・各学科の学科運営計画に内定目標数値を明記して取り組んでいる。
- ・各学科の内定状況及び主な内定先（資料 6）

2. アンケート関連

(1) 平成28年度の実施状況

	前期授業アンケート	後期授業アンケート	学校生活に関する調査 挨拶に関するアンケート
実施期間	・ 6 / 27(月)～ 7 / 1 (金)	・ 12 / 12(月)～22(木)	・ 12 / 12(月)～22(木)
実施数	・ 332 科目、7,804 回答	・ 303 科目、6,865 回答	・ 596 回答
公表	<ul style="list-style-type: none"> ・ 後期授業アンケートの全体集計（別添 A） ・ 学内：教職員は学内ネット掲載、学生、兼任講師には図書室に配架 ・ 学外：全体の一部を本校ホームページに掲載 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体集計（別添 B） ・ 学内：教職員は学内ネット掲載、学生、兼任講師には図書室に配架 ・ 学外：非公表 	

3. 卒業式関連

- ・ 3 / 8（水） 卒業・修了判定会議
- ・ 3 / 15（水） 平成 28 年度卒業式・修了式（資料 6）

4. 職業実践専門課程関連

(1) 教育課程編成委員会の開催

	医療事務分野教育課程編成委員会	福祉分野教育課程編成委員会
対象学科	医療秘書科、医療マネジメント科、（診療情報管理専攻科）	介護福祉科
第 2 回	2 / 16（木）	2 / 27（月）
主なテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度の教育活動と学科運営に関する報告 ・平成 28 年度の教員研修に関する報告 ・平成 29 年度のカリキュラム、教育活動と学科運営について説明、意見交換他 	

(2) 介護福祉科の職業実践専門課程認定

- ・ 2 / 28 官報（号外第 39 号）に文部科学省告示第 22 号で公示（別添 C）

今年度の一都三県での介護福祉科の認定は本校のみ

（全体の認定状況）

- ・平成 28 年度：150 校、240 学科

- ・平成 25～28 年度：902 校（全体の 32.0%）、2,773 学科（39.5%）、教育社会福祉分野は 248 学科（39.4%）
- ・一都三県での介護福祉科認定は本校を含み 21 学科

5. 教員研修関連

(1) 職業実践専門課程の認定要件に関する研修：平成 28 年度実施計画・実績（別添D）

- ①専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するために実施する研修
- ②授業及び学生に対する指導力等を修得・向上するために実施する研修

(2) 授業公開（別添E）

- ・今年度より教務委員会が運営を担当
- ・重点目標に基づき、常勤教員のインストラクションスキル向上を図ることを目的に実施
- ・実施期間は 10/11（火）～24 日（月）の 2 週間

6. 平成 29 年度新設学科

- ・学科名：医師事務技術専攻科
- ・修業年数：1 年、定員：30 名
- ・進学資格、出願要件、学費、カリキュラム他（別添F）

7. 学生募集関連

(1) 2 月末時点での出願状況

	看護科を除く学科	看護科
既実施 入試	<ul style="list-style-type: none"> ・10/15(土)、11/12(土)、11/26(土)、12/17(土)、1/21(土)、2/18(土) ・特待生、推薦、ワガ奨学生、AO、外国人、一般 	<ul style="list-style-type: none"> ・指定校・公募推薦：10/30(日) ・社会人・キャリア：11/26(土) ・一般Ⅰ期：11/26(土)、12/10(土) ・一般Ⅱ期：2/4(土)、2/11(土)
今後の日程	・3/25(土)	—

8. 平成 28 年度活動の自己点検・自己評価関連

点検委員会	報告資料名	記述者	参照
2 月	①平成 27 年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取組み・改善の進め方（年度末点検報告）※	各担当	資料 3
	②平成 28 年度の重点目標と達成するための計画・方法（年度末点検報告）※	校長	資料 4
3 月、4 月、 5 月	③平成 28 年度活動の自己点検・自己評価報告書（点検中項目）	各担当	次回委員会に報告
	④平成 28 年度活動の自己評価報告書（点検大項目）③のまとめ	事務局	
	⑤平成 28 年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取組の進め方 ①に続くもの	各担当	
	⑥平成 29 年度の重点目標と達成するための計画・方法	校長	

○退学及び就職内定の状況については、宮下事務局長より以下の補足説明が行われた。

- ・学生数の多い医療秘書科、医療マネジメント科の退学が多くなっている。
- ・就職希望者のうち内定者 277 名、内定率 87.7%で、去年に比べて 10 ポイントほどよい数字になっている。最終的に昨年の 98.2%と同様かもう少しよい数字が残る可能性がある。

○教員研修については、三宅教務委員長より以下の報告が行われた。

- ・教務委員会が主催した研修は、8 月 26 日の「アクティブラーニング型授業を考える」と 3 月 2 日の

「コミュニケーション力向上のためのコーチング体験学習」。

- ・今年度の外部研修は、参加者数が前年より約 1.8 倍と増加したが、受講者の傾向が2極化している。学科長には率先して研修に参加するとともに目標面接などの機会を通じて所属教員に指導をお願いしたいと思っている。研修に行った後の伝達の仕組みについて検討している。

○授業公開については、三宅教務委員長より以下の報告が行われた。

- ・本年度からは校長を実施責任者とし運営は教務委員会が所管した。仕組みの簡素化を目的として新授業公開要領を策定し、周知徹底を図ったほか、関連書類の作成及び見直し、実施期間の変更、授業参観者の対象範囲や授業公開の兼任教員への拡大などを行った。
- ・また、全教員に複数回の参観を義務づけし、学科長には全学科員の授業の参観を義務づけたが、看護科については授業の特殊性から努力目標とした。
- ・参観レポートと公開レポートは、改善点の提案ができるように書式を一新した。マイナスの面を指摘することに対して少し抵抗があるかと思っただが、意外と率直に指摘されていた。
- ・参観数は大幅に増加し、1人当たりの参観数は2.8となった。参観しなかった教員は2名で、目標のゼロには至らなかったが、大幅に減少した。
- ・背景には、目的を明確にして認識の共有化ができた、複数科目の参加を義務づけた、全学科一斉実施による一体感、公開期間を2倍にした、授業科目一覧をつくった、レポートを簡単にしたことなど、参観しやすい方向に運営のあり方を変革したことがある。アンケートからは授業公開への理解が浸透したことや積極的にとらえる機運の高まりが伺えた。
- ・課題は、非公開とする科目の取り扱いと授業公開の期間、参観する教員のマナーであり、マナーについては、参観のためのガイドラインを作成して、周知徹底する予定である。
- ・兼任教員への拡大は、学校を挙げた取組を目標としたいので、次年度はさらに参観者が増えるように努力する。

○平成29年度新設学科については、菊池学科長より以下の報告が行われた。

- ・今年度の4月から3名の学生を迎えて医師事務技術専攻科をスタートすることになった。
- ・医師事務作業補助者の求人も前年度24名が今年度71名と増えていることから、新学科の開設という方向に問題はなかったと思っている。
- ・医師事務作業補助者の業務内容は、専門領域の医療文書の作成、電子カルテの代行入力、具体的な診療の補助などの重要性が高い。そのベースとして医学知識を深めること、タイムリーな書類作成への対応などについて時間をかけて指導する。
- ・初年度は3名でスタートするが、できるだけ手をかけて、見本となるような卒業生にしていきたい。

○委員からの質問、意見と回答は次のとおり。

(1) 就職内定の状況について

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<input type="checkbox"/> 医療秘書科のクラス別内定状況に20ポイント以上の開きがあるのはなぜか。	<input type="checkbox"/> Bクラスは調剤の特定コースだが、このコースに興味を持った学生がたまたま消極的で、コミュニケーション能力不足が多かったことが影響していると思う。

(2) 教員研修について

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<input type="checkbox"/> 教員研修ではシンデレラ効果がよく言われると	<input type="checkbox"/> 研修報告書には業務にどう生かすかも記載されて

ころだが、研修の成果を実際に現場で生かすためにどのような工夫をしているか。	いるが、その後のチェックは各学科長にお願いしている。
---------------------------------------	----------------------------

5. 平成 27 年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取組みの年度末点検報告について

○事務局高橋より資 2 の構成及び表中の「※3 中間点検」の記述経過について説明が行われた。

○保坂委員長より、資料 2 は事前送付されていることから、項目順の質疑応答で進める旨の説明が行われた。

○委員からの質問、意見と回答は次のとおり。

(1) 重点目標：TPC 育成

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p>□TPC の育成と強化について、目標設定シートに基づき、校長先生が中間面接で進捗状況を確認する流れだということだが、その目標設定シートの中身が、一般的・抽象的な内容ではなく、より具体的な方策が書かれているかどうかが大切だと思う。印象はいかがか。また、先生方の目標設定シートに対する自己評価はどう感じているか。</p>	<p>□目標設定シートは川口学園の教職員全てがやっており、項目は具体的に設定されている。到達評価についてはかなり個人差があるが、上司と部下で確認しながら進めていくという意味では意義がある。</p> <p>TPC に関しては、学科運営計画に落とし込んで各自が授業の中で工夫している。私は、学生に学びの楽しさを味わってもらうことを今年度の目標としているが、TPC について、もう 1 回教員個人が見直してもらうことも必要かと思う。</p>
<p>□TPC に特化した、具体的な目標が必要なのではないか。</p>	<p>□専修学校協会で来年度行う指導案づくりの研修会に参加してもらうなど、具体的な指導案をつくることに力を入れていきたい。</p>

(2) 重点目標：退学防止

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p>□退学について、担任等の努力だけでは防ぎきれないケースとはどのような内容か。</p>	<p>□妊娠のような突発的なケースもあるが、経済的な問題が多い。退学については、特にここ 1～2 年は AO 入試による入学者の退学がふえている。入学前に面接型の指導をするなど、学習に関するボタンの掛け違いをなくし、モチベーションを上げるような指導を充実させていきたい。</p>
<p>□高校では、早い時期に進学や就職先が決まってしまった生徒に学習意欲を持たせるための指導をしているものか。</p> <p>□先生方がいろいろ工夫しながらやっているが、明らかにモチベーションが下がる傾向はある。</p> <p>□入学者数に対する AO 入試の割合はどのくらいか。AO 入試で入学した生徒の退学者の比率が高いと言えるのか。</p>	<p>□AO 入試の本来の意味は、その学校のアドミッション・ポリシーに合った学生を、早い時期に優先的に集めることにあるが、日本においては入試の便法になっている面がある。できる限り入学前指導の中身を充実させていくことを考えていきたい。</p> <p>□約 300 人中 50 名という割合になる。</p> <p>□早目に諦める人に AO 入試で入った人が多かった。医療事務系でミスマッチによる退学者もふえている。これは防げる退学なので、次年度に向けて具体的に考</p>

	えたい。
<input type="checkbox"/> 基礎学力テストの結果を入試方法別に分析したことはあるのか。 <input type="checkbox"/> 高校生の時点で身につけた学力が著しく劣っていて、授業についていけないという関連性もあるのではないかと。	<input type="checkbox"/> 入試方法による統計はとっていない。28年度に基礎学力の順位と退学者を相関させてみたが、数が少ないのでデータとしては意味がない。 <input type="checkbox"/> 感触としては成績の悪い者が退学する率が多いと思うが、抽出数が少なすぎて簡単には結びつけられない。退学の理由は必ずしも学業成績だけではなく、さまざまなことが関連しているので成績だけと相関させるのは難しい。 <input type="checkbox"/> 退学に結びつく理由に学業不振はあるが、AO入試で出願している学生の高校のときの評価は決して低くはないので、モチベーションとかミスマッチの部分が退学に結びついているのではないかと思う。

(3) 重点目標：教員研修

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<input type="checkbox"/> 病院の現場でメディカルコーチングが看護部を中心に注目されている。今回、コーチング技術の研修を受けて、どのような感想を持ったか。	<input type="checkbox"/> 今回は、メディカルや学校に限定したものではなくて、基礎的な知識として一般的なコーチング手法を体験した。感想としては、わかっているつもりでも、実はできていないことがたくさんあったという振り返りや、学生との面談、職員同士のコミュニケーションで活用したいという声が多く寄せられた。さらに応用編を体験したいという声もあったので、毎年、東京都の私学財団が行っているコーチング体験コースを案内したい。また、そのときのコーチの方の3名のうちの1名が千葉大学医学部附属病院の看護師長をされている方で、病院での導入事例を伺って興味深く思った。
<input type="checkbox"/> 授業公開については、2週間にわたって公開することで先生方もなれてきて、心理的な抵抗は薄らいでいるのではないかと。	<input type="checkbox"/> 最初は一種の緊張があるが、2週間もたつと緊張もほぐれてくる。教員としては、実際に授業の中でいろいろ工夫をしながら、一生懸命教えている姿を見せる機会があることは非常にうれしく思う。また、見せることに対して抵抗があるというのは仕事に対する考えとしては甘いと思うので、いつ見られてもおかしくないような授業をしたいという気持ちで取り組み、心のハードルを低くしていただければ根付くのではないかと思う。

(4) 項目1：教育理念・目的、育成人材像

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<input type="checkbox"/> 医療秘書コースの医師事務作業補助認定資格は	<input type="checkbox"/> 先日卒業した学生が入学したときは、医師事務作業

<p>新設学科に進む1つの条件だが、受験者25名中14名が合格したにもかかわらず専攻科に行かなかったのはなぜなのか。</p> <p><input type="checkbox"/>この新設学科は、都内ではかに開設しているところはあるのか。（保坂委員長）</p> <p><input type="checkbox"/>初めてということは本校の特色、強みの1つになると思うので、ぜひ進めてほしい。</p>	<p>補助者、医師事務技術専攻科は形になっておらず、案内書等にも載っていないかった。2年のつもりで入学してきている学生なので、さらに100万近い学費がかかるという点では難しい面があった。新2年生は69名が履修する。興味を持つ学生は増えているので、3年目で高度化、即戦力化を目指すことの重要性をいかに周知していくかが今後の課題かと思う。</p> <p><input type="checkbox"/>医療マネジメント科で医師事務作業補助資格を受験する教科を担当しているが、平成29年度は、医療秘書科のクラスも常勤教員二人で担当するので、丁寧にフォローできるかと思う。</p> <p><input type="checkbox"/>他校にはない。医師事務技術専攻科は資格を取ることが目的ではなく、実際に仕事ができる人材を育てることを目的としている。本校は記録の学校という背景もあり、カルテの代行入力、メディカルレポートなどの作成などができる人を育てたい。医療秘書科を始めたときと同じで、パイオニア的になる。進学する3人には良い就職をしてもらって、その姿を下級生に見せて次につなげていきたい。</p>
<p><input type="checkbox"/>学校コンセプトを決定するためのワークを実施したとあるが、何か結論や成果は出たか。</p>	<p><input type="checkbox"/>募集・広報上のリーフレットとしてまとめている。</p>

(5) 項目2：学校運営

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p><input type="checkbox"/>学事システムの更新が遅れている理由を聞きたい。</p>	<p><input type="checkbox"/>パッケージで販売されているものと本校で実際に行っている事務の流れとのマッチングがうまくいかない部分や、過去データの扱いなどで切りかえのタイミングがうまくマッチしていないのが大きな理由である。ほぼ丸1年遅れたが、今度の4月にはほぼ新システムに移れる状況である。事務局が先行するが、先生方も4月から主に学生データの閲覧、面談記録の入力などができるような形で進行している。</p>

(6) 項目別3：教育活動

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p><input type="checkbox"/>常勤職員と兼任講師間の協力という部分では、科会の回数を増やすことを提案したい。</p>	<p><input type="checkbox"/>ご意見として伺った。</p>

(7) 項目別4：学修成果

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
------------	-----------

<p>□卒業生の社会的評価について佐藤先生に伺いたい。高校でも就職先からの評価などを聞いたり確認したりすることはあるのか。</p>	<p>□就職に限らず、進学先について具体的に今の学校生活などについてアンケートを中心に把握し、対応している。就職者、進学者とも学校に呼んで、進路懇談会という形で指導してもらうこともやっている。</p>
---	--

(8) 項目別 6 : 教育環境

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p>□施設設備のところで、Wi-Fi について 29 年度の予算化には至らなかったとあるが、将来的には入れる考えがあるのか。施設設備に関しての学生生活アンケートに記述されているのであれば、きちんと反映していくべきものと思うので、その辺の関連も聞きたい。</p>	<p>□Wi-Fi についてはアンケートにも少し要望が出ているが、授業中に使われてもいけないし、予算の状況もある。ただし、先生方が授業で利用するという需要もあるので、いろいろな要素の中で検討していく状況にある。</p> <p>□数年前までは、むしろ携帯電話を使わせないように、校内に入る電波を妨害するようなシステムの売り込みもあったが、今は小中高などでタブレットを使った授業も一般化してきた。TPC とも関連するが、考えさせる授業の中でそういったツールを利用することが一般化しつつある中で、Wi-Fi を教育に生かす意味で必要になってくることはあると思う。また、授業アンケートの集計に利用するとか、授業以外のことも含めて教育に生かす形が生まれれば当然その方向に、予算化して進めていくことになると思う。</p>

(9) 項目別 7 : 学生募集と受け入れ

学校側からの質問	質問・意見への回答
<p>□我々が高校訪問をするとき、高等学校側で一番欲しい情報は何か。</p> <p>□募集効果上、毎年教員が出向くことに効果があるのかどうか。</p>	<p>□高校では専門学校についての理解が進んでいない面もなくはない。ホームページでいろいろな情報を公開するようになってきているが、それでもなかなか実態がつかめないのが、例えば就職であれば、就職状況とか雇用形態など具体的な実態を知りたいところはあると思う。</p> <p>□データを持っているわけではないが、高等学校側も担当者が変わって初めて聞くこともあるので、毎年行ったほうが、その学校がどれくらい熱心に教育を行い、募集もかけているかはわかるのではないかと。高等学校では中学校回りをやるが、最近は全教員が行くところが多くなってきた。教員自身の意識も高まり、生徒募集でもよい結果が出ている傾向はあると思う。</p> <p>□子供の年齢が上がるにつれて親が学校に行くことは少なくなる。家庭環境の違いもあるので、保護者会などを開いたところで参加するかどうかは難しいと思</p>

	うが、私は2年間、この委員会に参加させていただいて、先生方皆さんが、時代のニーズに添って、よい学校、よい授業を考えてくださっていることを間近で感じさせていただき、この学校を選んで間違いはないと感じていたので、その部分を伝えていくことは大事だと思う。親は高い学費を払うので、学校選びの1つのポイントとして、しっかり見てくれる学校を選びたいと考えている。アピールしないともったいないと思う。
委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□看護科の案内書にある「怒」という字は「思いやり」と読ませているようだが、ルビをふるのではなく、読み方と意味を表記しておいたほうが親切ではないか。もう1点、看護科の入試時期によって入試内容が異なる理由は何か。	□「怒」は、もともと河北医療財団の看護専門学校を引き継いだ形で使っているので、看護科についてはアドミッション・ポリシーをもう一度確認し、表現についても検討したい。入試については、受験しやすさを念頭に置いて作文を省略するなど、いろいろ工夫しながら模索している状況である。

6. 平成28年度重点目標の年度末点検報告について

○橋本校長より以下の報告が行われた。

- ・T P Cの育成と強化については手をかえ品をかえ継続しているところだが、平成28年度は、アクティブラーニングの教職員研修を実施した。授業公開は今年度少し進んだが、具体的なコマごとの指導案作成にも参考となるので、今年できたベースを踏まえて、次年度は学ぶことが楽しいと思えるような学校でありたいと思う。
- ・退学防止については、昨日までのデータで退学者数は32名、退学率は4.2%となった。昨年度よりはよいが、目標とした3.5%は達成できなかったもので、対策は必要だと思っている。
- ・1つは、AO入試による入学者の退学防止を図るため、次年度は教務委員会の中に入学前指導についての検討をする担当を置く。また、本当に学びたくても学べない人に対しては手厚く考えていくということで、最近では、入学時だけではなく、学習奨励奨学金を新たに設けている。それらを含めて解決に向けてやれるところはやっていきたい。
- ・最後の教員研修、授業公開の工夫とインストラクションスキルの向上については、授業公開をさらに進めて、指導案モデルの具体化をしていきたいと思っている。学内外の研修会も、新学校種がスタートする中で教育の質保証は繰り返し言われるところなので、授業公開や研究誌に自分の考えを載せることなどを通して、教職員間のコミュニケーションをさらに進めていきたい。

○報告に対する委員からの質問、意見はなかった。

以上